

工事検査ワンポイントアドバイス 「インフラDXとは？」

工事検査通信 No.102

発行： R8年6月23日

出納局 工事検査課

最近「DX」という言葉をよく目にしますが、先日研修を受講してきましたので、ご紹介したいと思います。

研修先は、宮城県多賀城市にある「東北インフラDX人材育成センター」で、インフラDXの推進に向けた人材育成を図るため、国土交通省東北地方整備局が運営しています。

自治体職員に限らず、だれでも無料で受講することが可能です。



どのような研修を受けられたのですか？

私たちが受講したのは、①3DCADとBIM/CIM、点群、②MR、VR機器、③シミュレータ（除雪グレーダ、BH）、④遠隔臨場体験演習、⑤3次元データ作成（3D-LiDAR）です。

特に、②のMRでは、図面データから作成した3Dデータを、ヘッドマウントディスプレイに映し出し、現実の風景と重ねて見ることで、構造物などの完成後の姿がイメージし易くなったり、⑤の3D-LiDARでは、タブレットを用いて対象物を撮影するだけで3Dモデルが作成でき、実際に人力で計測しなくても、寸法や面積などを測定することができるなど、今後、業務の効率化につながる技術だと感じました。



ところで、なぜ「インフラDX」が必要なのですか？

まず、「DX」とは何か？という、デジタル技術やデータの活用を進めることによって、社会や人々の生活を革命的により良いものに変えて行く考えです。コロナ禍での教訓や、今後の少子高齢化・人口減少などを見据え、国が推進しています。

インフラ（建設）産業でも人手不足は深刻ですので、今後ますます必要になってくると思います。



県でも何か取り組んでいるのですか？

県では、「福島県DX推進戦略」を策定しており、県発注工事においては、ICT活用工事の推進や、情報共有システム（ASP）の導入などに取り組んでいます。

なお、土木部では、「土木部デジタル変革（DX）推進計画」（資料1）を策定し、デジタル技術やデータを効果的に活用することにより、業務および業務プロセスを変革し、建設産業の生産性の向上を目指しています。



工事検査におけるDXもあるのですか？

工事検査課では、「遠隔臨場検査」に取り組んでおり、昨年度は560件の工事検査を実施しました。今後も課題を整理しながら、積極的に活用して行く方針です。

遠隔臨場にすることによって、移動時間の短縮など、効率的な検査の実施が図られると考えています。



今後もDXは発展して行くのですね。

DXの推進はまだ未知数な部分も多く、発注者・受注者ともに積極的に意見やアイデアを出し合い、より良いものにして行く必要があると考えています。



※参考資料

- ・資料1：土木部デジタル変革（DX）推進計画（-Ver.3-2025年3月）
- ・東北インフラDX人材育成センターホームページ：
https://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/J78201/homepage/gijutsuryoku/jinzai/DX_shisetsu.html

【本日のポイント】
インフラDXの推進

若井技師



今回の登場人物



唐井検査員